

ることができ、本を自由に手に取って見ることができるといふ、信じられないほど開放的なシステムになっている。筆者がいろいろな文献を目にすることができたのは、このシステムのおかげである。図書館の運営方針に対して深く敬意を表し、感謝します。

文 献

Bezdek, J.C., 1981: Pattern recognition with fuzzy objective function algorithms, Plenum Press, 256 pp.
 Fujibe, F., 1989: Short-term precipitation patterns in central Honshu, Japan—Classification with the fuzzy c-means method, J. Meteor. Soc. Japan, 67, 967-983.
 Key J.R., J.A. Maslanik and R.G. Barry, 1989: Cloud classification from satellite data using

a fuzzy sets algorithm: A polar example, Int. J. Remote Sensing, 10, 1823-1842.
 McBratney, A.B. and A.W. Moore, 1985: Application of fuzzy sets to climatic classification, Agric. For. Meteor., 35, 165-185.
 西田俊夫, 竹田英二, 1978: ファジィ集合とその応用, 森北出版, 164 pp.
 大隅 昇, 1979: ファジィ・クラスタリング, 数理科学 No. 191, 34-41.
 ———, 1988: ファジィ・クラスタリング, 別冊『数理科学』ファジィ理論への道, 114-124.
 坂和正敏, 1989: ファジィ理論の基礎と応用, 森北出版, 185 pp.
 寺野寿郎・浅居喜代治・菅野道夫(編), 1987: ファジィシステム入門, オーム社, 255 pp.
 柳原一夫, 1991: ファジィ測度による多変量解析とその気象への応用, 天気, 38, 381-388.



テクノ・オーシャン '92国際シンポジウム論文募集のご案内

我が国で唯一のシンポジウムと展示会を併設するテクノ・オーシャンは、第1回から第3回までは神戸で開催し、国内は勿論、国際的にも多大の評価を得てまいりました。

今回は、都市ウォーターフロント再開発が進行する横浜市MM21の国際会議場で開催いたします。シンポジウムのメインテーマは「人類と地球の共生を求めて—海洋環境と調和する海洋空間活用技術開発の展望—」であり、論文を各界から募集いたしますので、多数のご参加をお願いいたします。

日 時：1992年10月21日(水)～23日(金)
 会 場：横浜国際平和会議場(パンフィコ横浜)

〒220 横浜市西区みなとみらい 1-1

主 催：社団法人 国際海洋科学技術協会
 シンポジウム組織委員会会長：酒匂 敏次
 シンポジウム事務局長：近藤 健雄

論文募集要綱：

- 論文の内容 海洋空間利用コンセプト
 海洋制御技術(エコエネルギー)
 海洋に関するハイテクエンジニア

リング

海洋の文化と人間
 海洋産業の展望

- 要旨原稿締切 1992年4月25日(土)
 題名, 研究目的, 研究内容, 結論を日本語及び英語で(300字程度)提出していただきます。
- 論文採否通知 1992年5月15日(金)
 シンポジウム学術委員会で査読, 審査し決定します。
- 本論文提出日 1992年8月20日(木)
 日本語, 英語共に可です。
- 論文提出先 社団法人 国際海洋科学技術協会
 テクノ・オーシャン '92 国際シンポジウム事務局
 〒103 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-3-5 共同ビル(兜町) 65号
 TEL. (03) 3667-5350
 FAX. (03) 3667-7174



国際雪氷学シンポジウム開催のお知らせ

期日：1992年9月14日（月）～18日（金）

場所：長岡産業交流会館（新潟県長岡市）

主催：国際雪氷学会，日本雪氷学会，新潟県，長岡市
シンポジウムトピック：雪の物理学，積雪の分布と変化，降雪と関連する現象，雪崩，融除排雪，雪に関する社会的な問題，気候における雪の役割，海水下の雪，雪の氷の利用

参加申込：

事前申込締切 1992年6月1日（この日以後の申込は参加登録費に3,000円加算されます。）

参加登録費はシンポジウム運営費，発表前刷り費，レセプション，半日ツアー，懇親会，懇親会，およびロビーの経費等を含むものとします。

参加登録費：会員（IGS または日本雪氷学会会員）

¥35,000

非会員 ¥45,000

学生会員（IGS または日本雪氷学会会員）

¥15,000

学生非会員 ¥20,000

同伴者（18歳以上） ¥15,000

参加費追加料（6月1日以降） ¥5,000

（参加登録費の払い戻し期限は1992年9月1日）

発表論文の応募について：

論文要旨（アブストラクト）

提出締切 1992年3月1日

提出先 International Glaciological Society

Leansfield Rord, Cambridge CB 2 1ER
U.K.

書式等 言語は英語，用紙はA4サイズに2枚以内，

1枚目上段に著者名，所属，住所を明記の事

論文審査に付いて：提出された論文要旨により，内容のレベルと本シンポジウムトピックとの関連性に基づいて審査されます。審査結果の通知は1992年5月中の予定。審査の結果採択された論文は，その本論文が本シンポジウムのプロシーディングにのみ発表されるものとします。

論文要旨の配布：採択された論文の論文要旨はシンポジウム開催に際して参加者に配布されます。

本論文の提出と出版：シンポジウムにおいて発表された論文は，プロシーディング（Annals of Glaciology Vol. 18）に出版が予定されます。本論文の提出期限は1992年7月1日，提出先はSecretary General, IGS（住所は別掲）とします。

プログラム：詳細は第3回案内状にて発表予定。口頭発表とポスターセッションの両形式を予定。半日ツアーその他の行事は9月13日の当日登録の際に詳細が発表されますが，日程は以下のようです。

レセプション 9月13日（日）夕

祭りと花火見学 9月15日（火）夕

半日ツアー 9月16日（水）

懇親会 9月17日（木）夕

宿泊：長岡市内にホテルを9月13日から17日まで事務局で予約してあります。これらの一泊朝食付のおおよその値段は以下のようです。

(a) シングル ¥7,200 ツイン ¥14,000

(b) シングル ¥6,100 ツイン ¥12,000

(b) 公営和風 ¥4,500

宿泊予約をご希望の方は一泊分の予約金を参加申込時に払い込み下さい。

ポストーシンポジウムツアー：予約金各ツアー共

¥20,000

(A) 黒部京都ツアー（所要経費 ¥80,000）

“ホウ”雪崩で有名な黒部峡谷を，関西電力株式会社のご協力により黒部第四ダムまで行きます。そこからケーブルカーで標高2,450mの立山平に出て宿泊します。翌日は富山に降りて，北陸本線経由で京都に出，その翌日にかけて京都見物するルートです。関電黒部ルート利用のため人数制限が僅かに20名です。

9月18日 長岡—（バス，軌道）—宇奈月

9月20日 宇奈月—黒部ルート（エレベーター，軌道，インクライン等）—黒部第四ダム—（ケーブルカー）—立山平（泊）

9月20日 立山平—富山—京都（市内観光）

“天気” 39. 2.

- 9月21日 京都観光(京都駅12:00解散)
 (B) 越後奥只見ツアー(所用経費 ¥30,000)
 13 km のトンネルの先にひっそりと横たわる奥只見
 銀山湖、「北越雪譜」で知られた江戸期の越後の文人鈴
 木牧之の記念館、雪崩防止工の数々を見学する。
 9月18日 長岡一銀山湖一大湯温泉
 9月19日 大湯温泉一鈴木牧之記念館一雪崩防止工
 見学一越後湯沢

シンポジウム参加申込の方法(日本在住者用):

本シンポジウムへの参加される方は添付の参加申込書
 に必要事項を記入し、IGS本部へそれを送ると共に、添
 付の振込用紙により所定の参加登録費を下記へ送金して

下さい。その際参加申込書の写しを下記に必ずお送り下
 さい。

(参加申込書の写し送付先)

〒940 長岡市幸町2-1-1

長岡市役所

企画調整部克雪・防災課内

1992年国際雪氷学シンポジウム事務局

(参加登録振込先)

銀行名 北越銀行 長岡市役所支店

預金口座 普通預金

口座番号 38247

名義 International Glaciological Society

第3回メソ気象研究会開催のお知らせ

第3回メソ気象研究会を、1992年日本気象学会春季大
 会の前日に開催いたします。今回は「風」をテーマにい
 ろいろなトピックスを集めました。奮って、ご参加下さ
 い。

プログラム

1992年5月25日(月) 13:00~17:00

気象研究所(つくば)

テーマ:「風をつかまえろ!」(仮題)

コンピーナー:吉崎正憲(気象研)

一座長:小元敬男(大阪府立大学)一

1. 新野 宏(気象研):1990年12月11日の千葉県
のシビア・ストームの解析
2. 林 泰一(京大防災研):竜巻などの瞬発性気象現
象に伴う強風とその被害について
3. 大野久雄(気象研):岡山ダウンバースト・

1991年6月27日午後一データの種類、
 解析結果、今後の観測システム一
 一休憩一

一座長:坪木和久(東大海洋研)一

4. 山中大学(京大超高層):VHF/UHF 電波の語る
空の様子とその気象語への翻訳
5. 渡辺 明(福島大):寒気吹き出し時の大気擾
乱のメソ構造(MUレーダー等による
観測結果から)
6. 榊原 均(気象研):ドップラーレーダーでと
らえたメソスケール現象

◎総合討論

代表世話人 小倉義光(日本気象協会)
 事務局 吉崎正憲(気象研究所)
 坪木和久(東大海洋研)

大気-海洋相互作用研究会開催のお知らせ

大気-海洋相互作用研究会を、1992年度日本気象学会
 春季大会の前日(5月25日(月))に下記の要領で開催い
 たします。ふるってご参加下さい。

1. 日時:1992年5月25日(月), 13:30~17:00
2. 場所:未定(気象研究所あるいは春季大会会場(工
業技術院講堂)を予定)

3. テーマ:「中・高緯度における大規模大気-海洋相
相互作用」(仮題)

コンピーナー:花輪公雄(東北大理)

4. 研究会の詳細については次号でお知らせ致します。

研究会事務局 藤谷徳之助・中沢哲夫(気象研究所)